

年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問
PT / OT / ST
コアカリ()

当施設リハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

《年間目標》

- ① 出口入口の整備：移行支援加算6名、短期集中リハによる質担保、リハマネ35名、生活行為向上リハ加算
- ② 集団リハの定着化(ASEA評価実施)

●構造 structure

上半期PT3名、OT3名、ST1名(新卒OT1名、既卒PTOT1名ずつ)

(うちロゼイ月水OT1名、火木金PT1名派遣)

⇒下半期PT1名、OT3名、ST1名(PT1名矢木病院、1名退職)

(うちロゼイ月水OT1名、火OT1名、木金PT1名派遣)

※随時訪問、入所からの支援あり

生活行為向上リハビリテーション研修会受講者(4名 PT2名、OT2名)

●過程 process

出口整備としてあろんていあ住吉との連携図った

リハマネ会議での営業活動(生活行為向上リハビリについて打診、チラシにて説明)

随時退院後の利用者の声掛け実施

興味関心チェックシートを活用し、利用者のニーズを明確化

曜日別に集団のグループ化(園芸、習字、手芸の集団活動を実施、随時ASEAの評価を実施)

●結果 outcome

- ① 出口入口の整備：移行支援加算7名、短期集中リハ13名(内2名重複)
リハマネ35名達成、生活行為向上リハ加算0名と未達も4月以降1名予定

- ② 集団リハの定着化(ASEA評価実施も効果判定までには至らず)

園芸については一部デイスタッフ実施に移行

習字については利用者減少によりイベントでの開催に変更

手芸については利用者再選定し自宅の趣味として実施出来た方2名あり

※上記集団を通して作品作成実施出来、通所リハ内に掲示

掲示物を住之江区区民ギャラリーに掲示予定(4/3~4/17)

※別口で通所スタッフ全体会議を実施(次年度加算について話し合い実施)

《次年度持ち越し課題》

移行支援加算継続、生活行為向上リハ継続、口腔ケア加算算定、稼働率95%達成に向けての施策検討
集団リハの評価指標の習熟(ASEA⇒MOHO)